ハルトムート・ケルブレ(ベルリン・フンボルト大学教授、パリ大学名誉教授)

『ヨーロッパ社会史　1945 年から現代まで』　　赤松　廉史

本書の歴史を見る視点

○多様な動きの中に、長期の流れの中に、一つの共通した潮流を見出そうとする。

○　多くの多様な事象を俯瞰する。

○　進歩的な潮流・ヨーロッパの共通性・その未来をめざす動きを追う。

第三部　社会と国家

第９章　メディアとヨーロッパ世論

戦後、ヨーロッパ世論の兆候

1980 年以後、その発展、専門家世論の発展。

国際的ヨーロッパ世論を準備　国際間の繋がり・環境の進展。

メディアの多様化・供給の増大

私的空間の拡大・家庭での情報の授受

新しい公的空間の生成（インターネット上）

ヨーロッパにおける世論の特質

：個別の相互に結びついた政治・経済・学問・文化・教会の多様な世論

世論の中に、政府への多様な批判の存在、市民社会の発展を。

第１０章　社会運動・社会紛争・市民社会

戦後　　無気力・無感動が人々を覆う

1950・60 年代　国境横断的なヨーロッパ市民社会の萌芽

市民社会：他人への援助・連帯・洗練・信頼・非暴力

一般の利益という価値に方向付けられ、

組織的に中央集権化されておらず、

組織・運動・計画の多様性からなる。

世論と密接に結びついて、

もっとも、排他的になってしまう面も。

アムネスティ・インターナショナル

国際的な組織・団体の生成

60 年代以降　社会運動の発展

←　生活・価値変化　社会性・教育の変化

自由化の進展

都市間のパートナーシップ
学生・生徒の交流　国境横断的な情報・技術・伝達。
ヨーロッパの人々間のコミニケーションの発展

第１１章　福祉国家

戦後、福祉国家の発展
↑未来全体へのオプティミズム
普遍的物質的進歩へ信仰
並外れた経済成長の時代　国家収入の増大
1930 年時　世界経済恐慌時、市場の信用の失墜

1970 年代以降
福祉国家は、停滞することになるが、決して後退することは　なかった。
ヨーロッパの共通性を推進していくことへ

ＥＵの政策
ＥＵ内すべてにおける移動・職業の移動の自由
人間らしい労働の権利の発展と共に

第１２章　都市の成長と都市計画

ヨーロッパにおける都市の発展
戦後、急速な都市の発展
→その発展の結果、交通量の重荷にあえぐ都市中心部の非人間的状況
都市中心部の根こそぎの再開発
機能主義の単調性
→人間的ネットワークを持ち、古い建物を改修
歩行者、環境を重視した新しい都市空間
都市の計画に携わる人々らの国際的な繋がり、共有性も増す。

第１３章

教育の拡張
大学・中等・高等学校の発展・拡充

戦後、教育機会の均等を目指す。→教育部門の財政・効率性のチェック
→教育は経済的な原動力としても世論に認識。
「20 世紀に、ヨーロッパの教育に起こった変革の影響は、２１世紀の最初の数十年になって初めて、ヨーロッパ社会全体の中に、現れるようになる。」